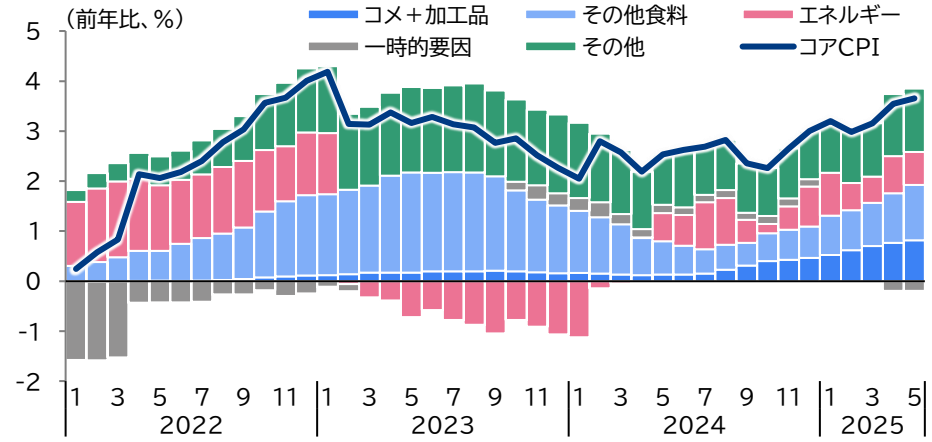
日本

消費者物価指数（2025年5月）

コアCPIの伸びは3カ月連続拡大、コメなど食料価格上昇が寄与

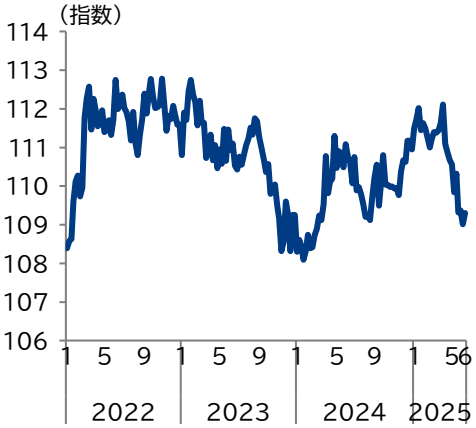
政策・経済センター
山本道也・堂本健太
03-6858-2717

1 コアCPI（生鮮食品を除く総合）



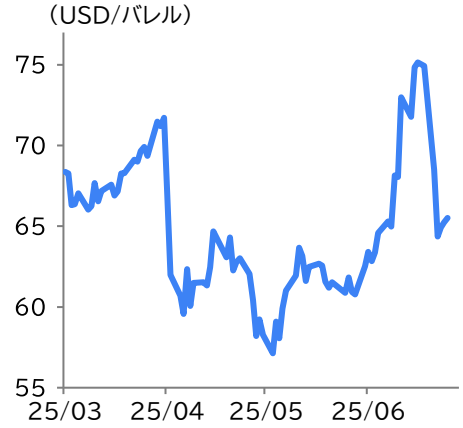
注：一時的要因は、高校授業料の無償化など政策や統計処理の影響。コメ＋加工品は、米類に加え、コメを材料とする加工品11品目を対象として算出。
出所：総務省「消費者物価指数」を基に三菱総合研究所作成

2 予想物価指数



注：2～3カ月先の物価予想に関するアンケート回答から算出する指数。週次ベース。直近の調査日は6月18日。
出所：株式会社マクロミル調べ「Macromill Weekly Index」を基に三菱総合研究所作成

3 原油先物価格（WTI）



注：日次（終値）ベース。直近は6月27日。
出所：NYMEXを基に三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 25年5月の消費者物価指数（生鮮食品を除く総合、以下「コアCPI」）は、前年比+3.7%（4月同+3.5%）と3カ月連続で伸び率が拡大した（図表1）。
- コアCPIの伸びを項目別に見ると、「食料（■＋■）」（4月前年比寄与度+1.76%pt→5月同+1.92%pt）のプラス寄与が拡大した。なかでも、コメ価格高騰の影響は関連加工品にも波及し（■）、物価を押し上げている。
- 加えて、様々な財・サービスを含む「■その他」（4月同+1.24%pt→5月同+1.26%pt）のプラス寄与も拡大しており、価格引き上げ行動が広がっている。
- 一方、「■エネルギー」（4月同+0.74%pt→5月同+0.66%pt）のプラス寄与は縮小した。既往の原油価格下落を受けてガソリン価格が低下したほか、電気代における再エネ賦課金の増加幅が縮小したことが影響した。
- なお、生活実感と関連の深い総合CPIは5月前年比+3.5%（4月同+3.6%）と、生鮮食品価格の高騰一服から、わずかながら伸び率が縮小した。

基調判断と今後の流れ

- 消費者物価は、コメなどの食料価格を筆頭に伸び率が拡大している。
- 先行きについて、コアCPIの伸び率は25年秋にかけて3%を割り込むと予想する。
- 実際、消費者の予想物価指数は4月以降、上昇傾向が一服している（図表2）。政府備蓄米の放出を受けて、コメ価格が頭打ちしつつあり、物価の先高感が緩和したとみられる。
- もっとも、中東情勢の緊迫化から原油価格は乱高下しており（図表3）、エネルギー価格の不確実性は高い。イラン・イスラエル両国は停戦を受け入れる方針を示しており、紛争先鋭化のリスクは一旦後退したが、完全終息に向かうか不透明感は残る。今後、仮に中東からの原油調達が制約される事態になれば、企業の調達・生産コストの上昇やサプライチェーンの混乱を通じて、物価が大幅に上振れる可能性もある。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.